

ふるさと共援活動支援事業

京丹波町下大久保集落の概要

ふるさと共援活動組織

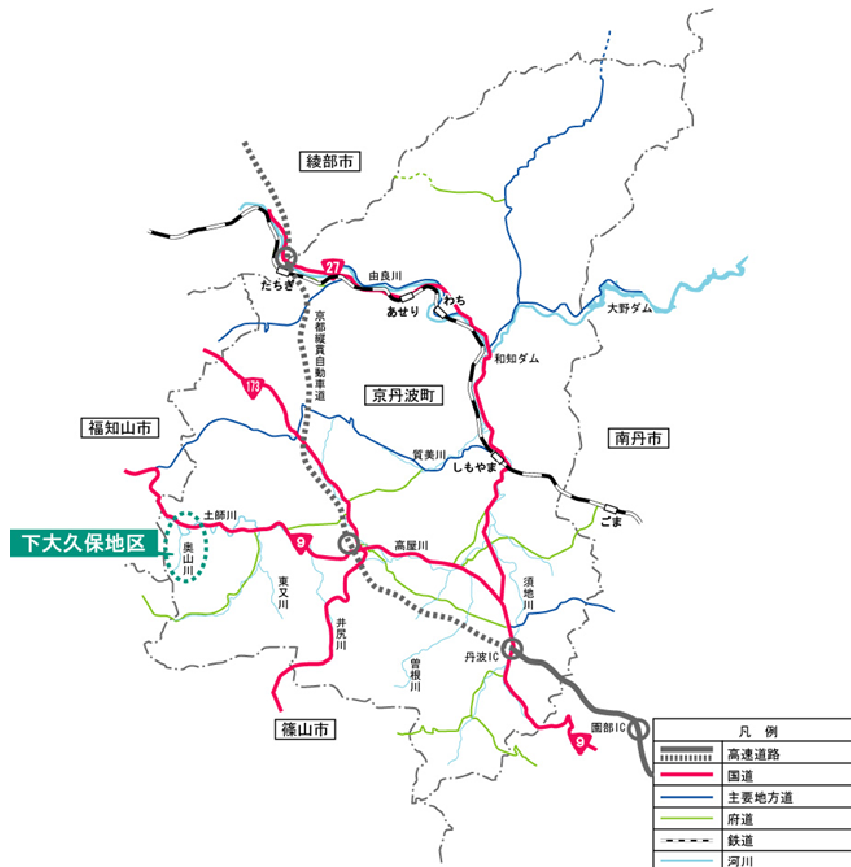
「下大久保虹の村づくりの会」



◆集落の概要

下大久保集落は京丹波町の最西部に位置し、福知山市及び兵庫県篠山市に接しており、集落の北側を走る国道9号線より低い位置に田園と集落が広がり、また、周囲は標高300m程度のなだらかな山に囲まれ、集落内を1級河川土師川及び奥山川が流れている。

古来、山陰道の要衝として、宿場や荷役業で栄えた歴史を持ち、現在も古い町並みが残っている。



◎世帯数・人口（住民基本台帳 平成22年4月1日現在）

世帯数 77戸
人口 197人

（年齢構成）

19歳以下	28人
20歳～39歳	37人
40歳～64歳	65人
65歳以上	67人

高齢化率（65歳以上） 34.0%

◎農林業関係

農家数 34戸（専業農家 5戸、兼業農家 29戸）

林家数 29戸 ※2005年農林業センサスより

農用地面積 36.8ha（うち整備済面積 22.4ha）

作付面積 水稲 17.6ha、野菜 0.7ha、その他 5.2ha

主に水稲中心の個別経営が行われている

林地面積 人工林 115ha、天然林 191ha

◆地域資源等

【文化財・祭り】

◎白倉神社

創建時期は不詳であるが、毎年秋には地域住民が作った「野菜みこし」が奉納される。



野菜みこし

◎薬師堂

瓦葺きの5坪ほどの堂内に薬師如来と地藏尊が祭られている。

また、「耳の神様」の言い伝えが地域には残っている。



薬師堂（耳の神様）

【農業】

◎直売野菜市

国道9号線沿い（JRバス停横）で農家組合が主体となり「みずほ野菜市」（毎週日曜日朝）を開催し、地元産の野菜、米等を販売している。



直売野菜市

◆集落の課題

下大久保地区は、高齢化率34%と過疎・高齢化が進んだ集落であり、近年、住民の連帯感や集落活動への意欲が希薄になりつつある。今後も一層過疎・高齢化が進み、伝統行事や農地・森林の保全管理等の集落活動を維持することが困難になることが予測される。

そのため、将来にわたって安心して暮らせる地域づくりを進め、定住者が増える集落づくりを進める必要がある。

今までから、「直売野菜市」や「花壇づくり等の景観づくり」を積極的に進めてきたが、それぞれの活動等が連携しておらず、これら活動が地域内に十分浸透せず、地域外の人たちとの交流も十分にできていなかった。

また、昨年度梅林整備を行い苗木を植樹したので、新たな地域資源としての活用方法を検討していく必要に迫られている。

◆共援事業でめざすもの

過疎・高齢化が進むなか、若い人たちが魅力を感じる村の将来像を集落全員で考える時期であると考えており、幸いにも今なら、退職者等の50代から60代の住民たちが中心となって活動できると思われる。

また、今まで各団体が積極的に取り組んできた地域づくりの活動を地域全体で点検し、今後の地域づくりを効率的に進めることが重要であると考えている。

今回、京都学園大学をパートナーとして、「ふるさと共援活動支援事業」により、中川教授はじめ学生の方々と地域住民が一緒になって集落の将来像を考え、地域資源を活かした景観づくり等を通じて「下大久保ファン」を増やし、将来的には定住してもらえるような元気な集落づくりをめざしたい。

特に、中川教授はじめ学生の皆さんには、従来地域住民では考えもつかなかったような斬新なアイデアを期待したい。